

日語 “*naru*” 構句之類型及語意構造

- 從認知語意論之觀點 -

蘇文郎*

摘要

在蘇（2001）（2005a）（2005b）的研究裡發現「*~ni/to naru*」句中「名詞/*koto/you*/連用語」和動詞「*naru*」結合之構句形態具多重語意特徵、即表變化之典型用法與表非變化用法、且兩者具某種派生關係。

本論文嘗試導入認知語意論之觀點探討各類型「*naru*」構句之語意構造及其語意形成原理。主要探討的分項主題如下：

- 1) 表主體變化之 *naru* 構句
- 2) 表非主體變化之 *naru* 構句
- 3) 含 *naru* 之慣用句及諺語

關鍵詞：*naru*，變化，非變化，慣用句，認知語意論

* 國立政治大學日本語文學系 教授

A study of “ naru” expressions about the construction and meaning from the viewpoints of cognitive semantics

Soo Wen-Lang*

Abstract

The purpose of this paper is to analyze the marginal uses of the “~/ni/to naru”expressions in Japanese. In my analysis(2001) (2005a)(2005b), I have found that the “~/ni/to naru” expression has prototypical meaning of change-of-state , besides it has several kinds of non-prototypical meaning . The main discussion of this paper is to clarify the unique characteristics of

- 1) expression related to the change-of-state
- 2) expression related to the non-change-of-state
- 3) idioms which contain “ naru”

from the viewpoints of cognitive semantics.

Keywords: naru, change-of-state, non- change-of-state, idiom, cognitive semantics

* Professor, Department of Japanese ,National Chengchi University

認知意味論から見た「ナル表現」の類型と意味構造

蘇 文郎*

要旨

蘇（2001）（2005a）（2005b）の考察で分かったことであるが、「～ニ／トナル」における「名詞/コト/ヨウ/連用語」と動詞「ナル」の結びつきという共通の形式構造の中に様々な意味構造を読みとることができる。すなわち、典型的ともいふべき変化を表す用法とそれとなんらかの係りをもった派生的な用法があるわけである。

本研究はナル表現における各類型の意味構造とその形成原理を認知意味論の観点から体系的に探求するのが目的である。主な考察項目は次のようになる。

- 1) 主体の変化を表すナル表現
- 2) 主体の変化を表さないナル表現
- 3) ナルが用いられる慣用句と諺

キーワード：ナル表現、変化、非変化、（ナル）慣用句、認知意味論

* 国立政治大学日本語文学科 教授

認知意味論から見た「ナル表現」の類型と意味構造

蘇 文郎

1. はじめに

現代日本語の「～ニ/トナル」（以下「ナル表現」と呼ぶ）における「ニ/ト格の名詞」「連用語」¹と動詞「ナル」の結びつきという共通の構文形式の中に、さまざまな意味構造を読み取ることができる。典型的ともいふべき変化を表す用法と非変化的用法、そしてそれとなんらかの係りをもった派生的な周辺の用法を持っている。

筆者はこれまで、日本語の変化表現における諸類型の構文を自動詞文と他動詞文、そして要求される結果補語の数及び種類によって9つのタイプ²に分け、形態、統語、意味の3つの側面から詳しい考察を行い、かなり具体的な成果を上げることができた。その中でナル動詞が持つ多義性に気付いて関連する限りで触れてきた。特に、蘇（2001）（2005a）（2005b）では、「～ニ/トナル」形式の表現においては、他の変化表現に見られないような意味・用法の広がりを見せていることが観察できた。ナルの基本義は普通は主体の何らかの「変化」のプロセスを述べる語彙項目として理解されるものであるが、実際には変化を表す用法から変化を表さない用法へと意味転化する現象、つまり意味的派生関係が数多く見受けられる。しかしながら、それぞれの意味解釈の成立原理などについては、体系的な考察にいたらず、また、ナルがその意味領域の内部にどのようなバリエーションの広がりを持っているかという点についての分析もまだ充分で

¹ イ形容詞、ナ形容詞の連用形や副詞を含む。

² 蘇（2001）などで考察したのはⅠ）XがV（変化自動詞）Ⅱ）XがY（名詞）に/とV（変化自動詞）Ⅲ）XがY（連用語）V（変化自動詞）Ⅳ）Y（補文）こと/よう/ということになるⅤ）XがYを～化するⅥ）XがYをZ（名詞）にV（変化他動詞）Ⅶ）XがY【補文】ようにするⅧ）XがYをZ（連用語）にV（変化他動詞）Ⅸ）XがYをNV（名詞+動詞連用形）にする という9つの類型の変化構文である。

はなかった。

一見、相反したように見えるこの「変化」と「不変化」の多義性をより全般的にとらえ直し、ナル表現の意味領域の内部をもう一步深く突っ込んで体系的に観察する必要があると思われる。また、他の表現との意味の連続性や意味解釈成立の派生関係について新たに加えるべきことも発見された故、ここに改めて取り上げることにする次第である。

2. ナル表現の多義構造

蘇 (2001) (2005a) (2005b) のこれまでの研究では、ナル表現には、下例が示すように

- (1) それでも我々はすぐに気があって仲良くなった。(ノルウェイの森)
- (2) 私たちはある種の前提のもとにここで暮しているから、こういう風にもなれるのです。(ノルウェイ)
- (3) 「ここに来てもう四ヵ月近くになります」と直子はずづけていた。(ノルウェイ)
- (4) レイコさんが練習を止めてギターをはたと膝の上に落としした。「あなたまだ二十歳になってないでしょ？ いったいどういう生活してんのよ、それ？」(ノルウェイ)
- (5) ただし順序は朝とはまったく逆になる。(ノルウェイ)
- (6) 旧暦による来年の元日はグレゴリオ暦の一月二十四日となります。
- (7) 会議室は階段を上がった二階になります。
- (8) この車両は女性専用となります。
- (9) シーズンの折り返しとなる 68 試合目は打線に自信を付けさせる大事な節目となったはずだ。
- (10) テレビがデジタル化すれば、ハイビジョン並みの精細な映像が楽しめるし、双方向放送の可能性も広がる。その第一

歩となるチャンネル変更に早く着手した。

(11) 春希が撮影場を首になった。

(12) 私のつとめている軍需会社は解散になった。(6~12の例文は蘇(2001)より再録)

実質的变化の意味(例1、2)を表すほかに、形式的変化³(例3~6)を表すものも含まれたことや、そして変化の意味を失い、もっぱら発話時における話者の心的態度(モダリティ)(例7、8)やコンピュータ(例9、10)などを表すと思われる用法が数多くあることが分かった。なお構文的には「ナル」が用いられている能動文であるが、受動的意味が含意されている用法(例11、12)もずいぶん見うけられた。そして

(13) これじゃ、仕事にならないということがおわかりでしょうか。(「窓ぎわ」)

(14) 最終報告書は現場教師には大いに参考になるのではないか。(毎日2000)

(13)、(14)の下線部の「仕事にならない」「参考になる」のように、変化としての意味解釈ができず、変化から可能へ意味転換する用法も少なからずあった。

2.1. 本研究の分析方法

本研究では蘇(2001)(2005a)(2005b)の考察で得た結果を再確認しながら、ナル表現の構文的特徴、そして変化表現とコンピュータ表現、推論表現、可能表現、受動表現などとの意味的派生関係及び連続性の問題についても考察する。なお従来「イディオム」として片づけられがちな「Nニ/トナル」形式の慣用句を認知意味論の観点からその下位分類を試み、それぞれのタイプの意味特徴を考える。

アプローチのしかたとしては、認知意味論で意味の転用・拡張を

³ 実質的变化とは主体のあり方の変化を表すもので、形式的変化とはある量、期間に達する、至るの意味を表すものを指す。

生じさせる比喩の重要な下位分類としてメタファー、シネクドキー及びメトニミーといった三種の手法を取り入れ、ナル表現の多義語の複数の意味を関連付けるメカニズムの分析を行うこととする。

メタファー、シネクドキー及びメトニミーの定義については、榎山（2002）の定義を援用すると次のようになる。

メタファーは類似性に基づく意味の拡張、シネクドキーはより一般的な意味とより特殊な意味の間の意味の移行、メトニミーは事物の隣接性（空間及び時間における）、さらに広く事物の関連性に基づく意味の転用である。

2.2. ナルの意味構造

「ナル」の語彙的意味であるが、辞書にあたってみると、どの辞書にも文字通りの意味と同時に、文字通りではない、すなわち慣用的意味を載せている。例えば『広辞苑』5版では⁴「ナル」については文字通りの意味として「(1)現象や物ごとが自然に変化していき、そのものの完成された姿を表す。①……②別のもの、状態にかわる」と記述されている。すなわち変化の意味を表す「ナル」の基本義は「あるものや状態からそれとは違うものや状態に変わる」ということになる。そして「XガY(名詞)ニ／トナル」形式の変化構文は、変化の主体「X」がある過程を経て、「Yニ／ト」で表される変化後の状態に至るという基本的意味を表す。ところが主体がなんら変化の状態を呈していないにもかかわらず、やはり「XガYニ／トナル」形式の構文をとっている前掲した(6)～(10)のような文がある。これらの文は「ある状態からそれとは違う状態に移行する」という基本義から大きく逸脱した非変化的用法である。

⁴ 『広辞苑』5版では変化動詞としての「なる」の意味について次の通りに記述されている。①以前と違った状態、内容にかわる。②ある状態にいたる。③その時刻、時期になる。④あるものの用を果す、また、ある役を演ずる。⑤成り果てる。⑥将棋で、王、金以外の駒（こま）が敵陣に入り、また敵陣から動いて裏返しになり、飛車と角行は元来の力のほかに金、銀の資格を併せ持ち、他の駒は全部金の力を得ることを言う。

ナルの表す意味的特徴を認知文法論的に捉えると、ナルという動詞は「現象や物事が自然に変化する」というのが本義である。「以前と違った状態・内容になる。これより他の状態に移る。改まる」ことを「…にナル」「…とナル」の形で表される。なお、変化を表すナル表現は、本来、主体の変化だけではなく、次の(i)(ii)のような主体の新しい関係や状態の発生をも表すと考えられる。

i. ある関係・状態が生じる

ii. 結果としてある数量・金額・時期・状態などに達する

すなわち、主体の変化を表すナル表現と主体の発生を表すナル表現は何らかの成立を表しているという共通点を持つことから、前者は後者から派生したものと考えられる。

では、ナル表現の意味的多義性に関して起きている現象を認知意味論の立場から捉え直してみるとどうだろうか。認知意味論ではある形式が多義になる時、比喻による意味拡張が起こったと捉える。

3. 意味的観点に基づくナル表現の分類

ナル表現は意味的観点から大きく「主体の変化を表すナル表現」と「主体の変化を表さないナル表現」の二つに分類することができる。また後者はさらに(i)規定、習慣などを表すタイプ(ii)未来における事柄の成立を表すタイプ(iii)ある仮定条件のもとでの事柄の成立を表すタイプ(iv)推論的結果を表すタイプ(v)可能の意味を含意するタイプ(vi)受け身の意味を含意するタイプと、6つのタイプに分類できる。

3.1. 主体の変化を表すナル表現

14. 彼女は手紙にも自分で書いていたように以前より健康そうになり、よく日焼けし、運動と屋外作業のせいでしまった体つきになっていた。(ノルウェイ)

15. 谷川に沿って並ぶ集落も前に比べるとずっと小さくなり、耕

作してある平地も狭くなった。(ノルウェイ)

16. 彼女は両手を床について前かがみになり、まるで吐くような格好で泣いた。(ノルウェイ)

17. どうしてかはわからないけれど、この部屋の中で横になっていると、これまであまり思いだしたことのない昔の出来事や情景が次々に頭に浮かんできた。(ノルウェイ)

18. 我々三人だけでどこかに出かけたたり話をしたりするようになった。(ノルウェイ)

19. 「…文章を書けるようになるまでずいぶん長い時間がかかったのです。」(ノルウェイ)

これらのうち、(14) (15) は自然発生的に生じる主体の外見上の変化を、(16) (17) は意図的動作によって引き起こされる主体の外見上の変化を表している。そして、(17) (18) は主体の習慣や能力の変化を表し、「ようになる」という形態とる。

3.2. 主体の変化を表さないナル表現

主体の変化を表さないナル表現は次の i ~ vi のように 6 つのタイプに分けることができる。

i. 本来的構造、制度を表すナル表現

20. 門の内側のすぐのところは駐車場になっていて、そこにはミニ・バスと 4WD のランド・クルーザーとダークブルーのボルボがとまっていた。(ノルウェイ)

21. 次にカード式になっている学生名簿をくって六九年度入学生の中から「小林緑」を探しだし、住所と電話番号をメモした。(ノルウェイ)

22. 寮の部屋割は原則として一、二年生が二人部屋、三、四年生が一人部屋ということになっていた。(ノルウェイ)

ii. 未来におけるコトガラの成立を表すナル表現

23. そしておそらくやがては夕闇の中にすいこまれてしまうことになるのだろう。(ノルウェイ)

24. あるいはこういう言い方はあなたを傷つけることになるのかもしれない。(ノルウェイ)

25. そして眠くなるまでブランディーを飲みながら『魔の山』のつづきを読んだ。(ノルウェイ)

26. もしあなたが自叙伝書くことになったらその時はその科白使えるわよ。(ノルウェイ)

iii. ある仮定条件のもとでのコトガラの成立を表すナル表現

27. ここは他のところとはちょっと変ってるから、何の予備知識もないといささか面喰うことになると思うし。(ノルウェイ)

28. そうすると朝までそこにいなければならぬということになり、自己嫌悪と幻滅を感じながら寮に戻ってくるというわけだ。(ノルウェイ)

iv. 推論的結果を表すナル表現

29. 僕は十一月生まれだから、彼女の方が約七ヵ月年上ということになる。(ノルウェイ)

30. 原形をそのまま残したハンバーグステーキや厚焼き玉子、それに豚肉や小エビやマッシュルームの入ったシチューなどをみると、わが農園の豚は独りでとる私の昼食よりは明らか

かに贅沢なものを食べていることになる。「筑波山」

v. 可能の意味を表すナル表現

31. なにしろ二日たてばケロツとしちゃうわけでしょ、だからまあ放っておけばそのうちになんとかなるだろうって思うようになったのね。(ノルウェイ)
33. 軍隊のときの知りあいがウルグァイに農場持ってて、そこに行きやなんとでもなる。(ノルウェイ)
34. 「ね、ワタナベ君」とレイコさんが僕に言った。「悪いけれど二十分くらいそのへんをぶらぶら散歩してきてくれない。そうすればどうにかなると思うから」(ノルウェイ)

vi. 受け身の意味を含意するナル表現

35. 「・・・なにしろ外食してるところをみつかっただけで停学になる学校なんだもの」(ノルウェイ)
36. 敗戦から再建までの長い日々。...鬼ごっこが禁止された。さらに中等学校や師範、高専でも剣道、柔道、薙刀、弓道等の武道が禁止になった。/home.page3.nifty.com/

受け身の意味を含意するナル表現には“動名詞ニナル”と“名詞ニ／トナル”といった2つのタイプがある。

A: <動名詞>ニナル:

- 下敷きになる。
- 犯人扱いになる。
- 置き去りになる。
- 禁止になる。
- 停学になる。

B: <名詞>ニナル:

- 首になる。

ご馳走になる。

お世話になる。

3.3. 主体の変化を表すナル表現と主体の変化を表さないナル表現との意味的派生関係

ここまでナル表現の意味特徴について見てきたが、ことにナル表現の持つ多義性が明らかになった。しかし、ナル表現の持っている様々な意味の間、どのように関係しており、どのように位置づければいいのか、また、それらの意味は「結果」とはまたどのような関係を持つのか。本研究では、意味と形には何らかの心的メカニズムによって結ばれているものという主張にあり、それらの疑問について認知意味論の観点から考察を行う。

以下、主体の変化を表すナル表現（以下Aとする）と、主体の変化を表さないナル表現（以下Bとする）との意味的派生関係を認知意味論的観点から分析を試みる。

3.3.1. 「AとB i との派生関係」

(20)の「駐車場になっ^ていて」は、「門の内側のすぐのところ」の構造がある構造から「駐車場」という構造に変化し、その結果の状態が持続していることを表しているというよりは、むしろ「門の内側のすぐのところ」が「駐車場」という本来的構造を有していることを表している。そして(20) (21) (22)の本来的構造、制度を表すナル表現には「^ている」というアスペクト形式が用いられている。これらの「^ている」は変化の結果の状態というアスペクト表現ではなく、主体の本来的状態を表している。

(21)の「カード式になっ^ている」も、「学生名簿」が別の形から「カード式」に変化し、その結果の状態が持続していることを表しているというよりは、むしろ、「学生名簿」の形が最初から「カード

式」に定められていることを表している。

このように、(20) (21) の「なっている」は、主体の本来的状态を表していると見ることが可能である。しかし、本来的であるか、変化の結果であるかという違いを除けば、(20) (21) の状態は、次の(20') (21') のような変化の結果として示される状態とは内容的に変わりはない。

(20') 門の内側のすぐのところは芝生から駐車場になっ
た。

(21') 記入帳式からカード式になっ
ている学生名簿

したがって、B i の本来的構造、制度を表すナル表現は、変化の結果の状態を表す「なっている」から、メタファーつまり類似性に基づく意味拡張によって派生されたものと見ることができる。

37. このカードを差し込むと、ドアがあくようになっ
ている。

(37) の例文に見られる文末の分析形式の「～ヨウニナッテイル」は、統語的には目的を表す「ヨウニ」と同様の補文を埋め込む包摂力を持ち、“状態変化”という実質的な意味を失った機能動詞「ナル」と「テイル」の結合が、一つの“表現のシステム”を作り出し、より背景化の進んだ、状況中心的表現効果をもたらしている。

3.3.2. 「AとB ii との派生関係」

このタイプの表現は次の(25') のようにコトガラ（コトガラ）の成立を表している。

25' [コトガラ ((私が) 眠く] なる。

→ 「(私が) 眠い」というコトガラ（コトガラ）の未来における成立

したがって、B ii の未来のコトガラ（コトガラ）の成立を表すナル表現についても、コトガラ（コトガラ）の成立を表しているという点において、Aのナル表現と派生関係にある。

3.3.3. 「AとB iii との派生関係」

Biii のナル表現も、次のようにコトガラ（ことガラ）の成立を表している。

P という条件のもとで、Q というコトガラ（ことガラ）が成立する

(27) の「ここは他のところとはちょっと変ってるから、何の予備知識もないと」、(28) の「そうすると」という条件のもとでは、それぞれ「いささか面喰う」「朝までそこにいなければならない」という結果となる。

したがって、Biii のある仮定条件のもとでのコトガラ（ことガラ）の成立を表すナル表現についても、コトガラ（ことガラ）の成立を表しているという点において、A のナル表現と派生関係にある。

3.3.4. 「A と Biv との派生関係」

Biv のナル表現も次の (29') のようにコトガラ（ことガラ）の成立を表している。

(29') 僕は十一月に生まれたが、彼女は同じ年の四月に生まれた。

→ 「僕が十一月生まれで、彼女が四月生まれだ」という
事実に基づく「彼女の方が七ヶ月年上」という推論的
結果としてのコトガラ（ことガラ）の成立

この場合のコトガラ（ことガラ）とは、推論的結果としてのコトガラ（ことガラ）であり、すなわち意識の上での推論的結果の成立を意味する。「変化」を表すナルも「推論的結果を表す」ナルも「ある結果への到達」を表している点で共通していることが分かる。「変化」を表すナルは、我々が身を置く現実世界において、何らかの状態への到達の局面を述べるものである。これに対して、「推論的結果」を表すナルは、推論世界において何らかの結論へ到達する局面を述べるものである。すなわち、「ある結果への到達」という共通する意味が現実世界と推論世界という異なるレベルに適用されることによって、多義性が生じているのである。両者は「ある結果への到達」という意味を共有しつつ、現実世界を叙述する用法を基本とし、そこから推論世界を

叙述する用法の方向に意味拡張がなされているものと考えられる。この意味拡張は類似性の連想に基づいて現実世界から推論世界へとなされたものであると考える。つまり、ある領域のことがらを類似性の連想に基づいて異なる領域にたとえて理解しているという点でメタファーによる意味拡張の結果と考えてよいだろう。⁵

しかし、コトガラ成立を表す点においては、Aと変わりがない。したがって、Bivの推論的結果を表すナル表現についても、コトガラの成立を表しているという点において、Aのナル表現と派生関係にある。

3.3.5. 「AとBvとの派生関係」

可能を表す「ナル」は、「なんとか」「なんとでも」「どうにか」などといった疑問詞を含む様態副詞と共に用いられ、主体、あるいはこれと関係するコトガラが成立可能であることを表す。一方、主体の変化を表すナル表現は、次の(38)のように主体の変化のみならず、コトガラの成立をも表している。

38. [コトガラ [主体 部屋が] きれい] になる

→ 解釈1: 主体の「部屋」の状態変化

→ 解釈2: 「部屋がきれい」というコトガラの成立

したがって、Bvの可能を表すナル表現は、コトガラの成立を表しているという点においてAの主体の変化を表すナル表現と派生関係にある。

では、「～ニ/トナル」形式の構文がなぜ「可能」の意味を表すことが可能であるかを考えるには、もう一度「ナル」の持つ本質的な意味の検討に立ち返らなければならない。「～ニ/トナル」の「ナル」は先述したように「ある状態からそれとは違う状態に移行する」という基本義を持っているほか、「可能」の意味もある⁶。

⁵ 安達(1997)を参照。

⁶ 因みに、『日本国語大辞典』(巻15、頁358)でこの「ナル」の意味用法に

なお「可能」はもともと「能力可能」と「状況可能」「許容の可能」「自然可能」に分けられる。いずれの可能も「希望」の結論（結果）として存在する。結果可能の論理すなわち“～したい”→“～することができる”を反映しているように、動作主の意図（希望）がかなえられて、あるいは努力が実って動作が実現することである。

39. このように電話の対応ばかりさせられてはととても仕事にならないよ。

40. 「朝練」言ってみれば、早朝に近所の散歩をしているようなもの。はっきり言って、彼には何の練習にもならない。（五体）

39' このように電話の対応ばかりさせられてはととても仕事ができないよ。

40' 「朝練」言ってみれば、早朝に近所の散歩をしているようなもの。はっきり言って、彼には何の練習もできない。

(39) (40) の文ではいずれも「動作性名詞ニ/トナル」の述語句に可能の意味を帯びていることは (39')、(40') のように「～ができない」という有標識の可能表現形式に置き換えても表現の趣旨と知的意味が変わらないということから検証される。

3.3.6. 「AとBvi との派生関係」

41. 同課によると、木谷元支店長は「名古屋支店長をやれば取締役になれると思った。これまでの不正な融資があることを小川元組員に暴露されると、栄転どころか首になる。

（『朝日新聞』2009年2月夕刊）

42. 「・・・なにしろ外食してるところをみつかっただけで停学になる学校なんだもの」（例文35再掲）

(41) の「首になる」は実際の「首が切られる」という出来事か

についての解釈を見ると次のような注釈が記されている。補注(1) 動詞「なる」にはもと、成立する、できる、許される（差し支えない）などの意がある。

ら、「免職される、解雇される」といった意味にメタファー写像されている。このように、例文のような文脈では成功しないと解雇されるという意味が成り立つ。つまり「首」は「解雇」という派生義を持つ。そこから、「首になる」という慣用句では「解雇される」の意味、そして(42)の「停学になる」は「停学される」の意味が生じる。

こういった「ナル」の発揮する“受動表現的特性”を、「世話になる」、「御馳走になる」の連語にも見られる。いわば、「ナル」が、「スル」と対を成し、自他対立と語彙的受動態を特徴づける連語である。

3.4. 「変化」から「非変化」への意味拡張の原理

上述したように、主体の変化の意味を基本とする自動詞ナルがこのような多義な意味の広がりを獲得するメカニズムとは、現実世界に関する叙述から発話行為領域への類似性の連想に基づいた意味拡張（すなわちメタファーによる意味拡張）であると考えられる。この場合の類似性とは、主体の背景化という意味機能であると考えられる。ナルはある結果に到達する局面に主たる局面があるものであり、その結果に至らしめた存在やプロセスに対しては関心の薄い動詞である。したがって、ナルを使用することが一種の「和らげ」ともいうべき効果を生じさせることは現実世界を叙述する用法にも数多く見られるわけである。

4. 認知意味論から見たナルの慣用句と諺の意味構造

以上、「主体の変化」を表すナル表現と「主体の変化を表さない」ナル表現の意味的派生関係を見てきた。派生ないし転用のすがたはさまざまであるが、ナルが使われている慣用句に「比喩」と結びつけられるものも数多くある。

意味の拡張を生じさせる比喩の重要な下位類として、メタファー、シネクドキー、メトニミーという3種類が認められる。この3種類

の比喩は「ナル」の慣用句や諺（以下、それぞれをナル慣用句とナル諺と呼ぶ）の複数の意味を関連づける重要なメカニズムであると言えよう。

以下、メタファー、シネクドキー及びメトニミーの理論に基づいて、ナル慣用句やナル諺を分類したうえで、それぞれの表現において「ナル」の意味がそれを含んだ慣用句や諺全体の意味成立にどのように影響するかを考察する。⁷

4.1. ナル慣用句⁸

ナル慣用句の意味解釈の類型は次の（i）～（iv）の4タイプに分けられる。

（i）メタファーに基づくもの

メタファー（隠喩；metaphor）⁹：二つの事物、概念の何らかの類似性に基づいて、一方の事物、概念を表す形式を用いて他方の事物、概念を表す比喩。

例：足が棒になる・絵になる・毒にも薬にもならない・虎になる・灰になる・馬鹿になる・水になる・物になる・

（ii）シネクドキーに基づくもの

シネクドキー（提喩；synecdoche）：より一般的意味を持つ形を用いて、より特殊な意味をあらわす、あるいは逆により特殊な意味を持つ形式を用いて、より一般的な意味を表す比喩。

⁷ 本研究では『デジタル国語辞書 大辞泉』（2014年・小学館）で見つけた、33個の見出し項目となったナル慣用句（21個）と諺（12句）を分析対象とする。この33項目のナル慣用句・諺の意味用法などの語例資料は稿末に〔資料1〕として掲げたので参照されたい。

⁸ 本研究における「慣用句」は、宮地（1979）に従い「単語の二つ以上の連結体であって、その結びつきが比較的固く、全体で決まった意味を持つ言葉」と定義する。

⁹ メタファー、シネクドキー、メトニミーの定義は松本（2003：83）によるものである。

例：男になる・女になる・様(さま)になる・人となる・

(iii) メトニミーに基づくもの

メトニミー（換喩；metonymy）：二つの事物の外界における隣接性、さらに広く二つの事物、概念の思考的、概念上の関連性に基づいて一方の事物、概念を表す形式を用いて、他方の事物、概念を表す比喩。

例：相撲にならない・泉下の客となる・土になる・馬鹿にならない・白玉楼中の人となる・話にならない・人となる・身二つになる・根葉になる。

(iv) 二つの種類の比喩の複合に基づくもの

例：馬鹿になる・目頭が熱くなる・人となる・

(iv) のタイプは一律にメタファー的慣用句とメトニミー的慣用句のどちらか一方に分類できないものである。例えば、「馬鹿になる」は、“理性的な態度をやめる。無邪気になる”という点ではメタファー的であり、“ばかを装ってその場を耐えたり切り抜けたりする”という意味に拡張している点ではメトニミー的である。そして“本来の機能が失われる。感覚がなくなる”といった融合的な意味拡張は〈メトニミー＋メタファー〉的であると言える。したがって、このタイプの慣用句はメタファー的な性質とメトニミー的な性質のいずれをもかね備えた、いわば両者の「融合的」な慣用句¹⁰とみなすことができる。

4.2. ナル諺

ナルが用いられる諺は次の 1) ～12) に示された通り、12 例がある。

諺は短い語句で人生哲学や道理、先人の知恵・教訓あるいは諷刺を表すものであるため、意味的には、外在的な状況（すなわち、われわれを取り囲む具体的、即物的な世界に対応する状況）に基づく

¹⁰ 「融合的」慣用句に関しては（山梨 1995：P58）を参照

意味から内在的な状況（すなわち、われわれの心理的世界、認識の世界に対応する状況）に基づく意味への変化、そして、話者の主観的な信念や話者の主観的な態度を反映する意味への変化がとらえられると思われる。

ナル諺の意味解釈には、先述した慣用句の意味成立のメカニズムと似た傾向が観察できる。

まず、メタファーが大いに関係するタイプが挙げられる。1)～8)の例である。

- 1) 後の雁が先になる・〈メタファー〉
- 2) 打って一丸となる・〈メタファー〉
- 3) 陰になり日向になり・〈メタファー〉
- 4) 江南の橘、江北の枳となる・〈メタファー〉
- 5) 杓子は耳搔きにならず・〈メタファー〉
- 6) 朱に交われれば赤くなる・〈メタファー〉
- 7) 滄海変じて桑田となる・〈メタファー〉
- 8) 塵も積もれば山となる・〈メタファー〉

そして、メトニミーに基づいて意味解釈できるタイプ、次の9)と10)の2例である。

- 9) 朝には紅顔ありて夕べには白骨となる・〈メトニミー〉
- 10) 習い性となる・〈メトニミー〉

なお、先述したような、二つの種類の比喩の複合に基づいた「融合的」な意味のナル諺と見なすことができるタイプ。11と12である。

- 11) ミイラ取りがミイラになる・(メタファー +メトニミー)
- 12) 後は野となれ山となれ・〈メタファー +メトニミー〉

例えば、11)の「ミイラ取りがミイラになる」の場合は“人を連れもどしに行った者が、逆に先方にとどまってしまふ。また、説得におもむいた者が、かえって相手と同じ意見になってしまふ”というような意味解釈になる。

5. 終わりに

日本語のナル表現においては、他の変化表現に見られないような意味・用法の広がりを見せている。ナルの意味領域の内部をつぶさに観察することは、日本語の変化表現の全般を考える上でも有意義であると思われる。

「ナル」は他の変化自動詞と比較して意味特徴が極めて錯綜している動詞である。本研究では「～ニ/トナル」による「変化」と「非変化」の用法に分かれて考察を進めてきた。体系的な考察を通じて「ナル」の表す意味の違いは語彙レベル、句レベル及び文レベルにおけるその構造に大きくあずかっていて、その意味範囲が「大人になる」「良い天気になる」などの具体的な連語から「様^{さま}になる」「物になる」「水になる」などの慣用句、そして「朝には紅顔ありて夕べには白骨となる」「後は野となれ山となれ」などの諺まできわめて広いということが分かった。またその意味特徴は動詞「ナル」のテンス・アスペクト及び前接名詞の意味的性格とも係って大変複雑なものになる。一つの動詞の中に色々な機能用法がみとめられること、そしてそれぞれの用法の間に派生関係が認められ、主体の変化の意味を基本とするナルがこのような多義な意味の広がりを獲得するメカニズムとして、現実世界に関する叙述から発話行為領域への類似性の連想に基づいた意味拡張であることを解明できた。

参考文献

- 安達太郎 (1997) 「「なる」による変化構文の意味と用法」『広島女子大学国際文化部紀要』 第4号
- 池上嘉彦 (1981) 『「すると」「なる」の言語学』大修館書店
- 池上嘉彦 (1982) 「表現構造の比較-〈スル〉的な言語と〈ナル〉的

- な言語ー」『日英語比較講座発想と表現第4巻』大修館書店
- ウエスリー・M・ヤコブセン（1989）「他動性とプロトタイプ論」『日本語学の新展開』柴谷方良他編 くろしお出版
- 國廣哲彌（1982）『意味論の方法』大修館書店
- 國廣哲彌（1999）「認知的多義論ー現象素の提唱」『言語研究』106号
- 佐藤琢三（1997）「ナルの表現と丁寧さ」『文教大学国文』26
- 蘇文郎（2001）「変化表現についてー考察」『東吳日本語教育学報』24号
- 蘇文郎（2002）「変化表現Ⅱー「～ことになる」「～ようになる」及びモダリティ形式化した「なる」を中心にー」『蔡茂豊教授古希記念論文集』
- 蘇文郎（2005a）「Nニ/トナルの非変化的用法及び他の表現との連続性」『政大日本研究』第二号
- 蘇文郎（2005b）「ナル」の多義構造 『台大日本語文研究』第8期
- 関秀一（2010）「ナルの意味解釈ー可能の意味に着目してー」言語処理学会 第16回年次大会 発表論文集
- 辻幸夫（2003）『認知言語学への招待』大修館書店
- 中右実（1994）『認知意味論の原理』大修館書店
- 中村芳久（2004）『認知文法論』大修館書店
- 松本曜（2003）『認知意味論』大修館書店
- 宮地裕（1979）『新版 文論』明治書院
- 初山洋山他（2003）「多義性」『認知意味論』松本曜編 大修館書店
- 山田進（1995）「多義語の意味記述についての覚書」『聖心女子大学論叢』92号
- 山梨正明（1995）『認知文法論』ひつじ書房

辞典

『広辞苑五版』岩波書店 1998

国語辞典 大辞林（第三版）1996

『デジタル国語辞書 大辞泉』（2014年・小学館）

日本語基本動詞用法辞典 小泉保他編 大修館書店 1989

日本国語大辞典 小学館 1973

資料 1

＜ナル慣用句・諺の語例と意味用法＞

足が棒になる：長い時間歩いたり，立ち続けたりして，足の筋肉がこわばる。非常に足が疲れる。大辞林 第三版（以下同）

朝(あした)には紅顔ありて夕べには白骨となる：〔蓮如の「御文章」より〕人の生死の予知できないこと，世の無常なことにいう。

後の雁(かり)が先になる：あとの者が先に進む者を追い越す。後輩が先輩を追い越すことなどにいう。

後は野となれ山となれ：当面のことさえうまくいけば，あとはどうなろうとかまわない。末は野となれ山となれ。

打って一丸(いちがん)となる：すべての人がひとまとまりになる。

絵になる：①絵にかいたならば良い絵になりそうな，姿・形・場面・景色である。②姿などがその場の雰囲気とぴったりと合っている。

男になる：①成人して一人前の男子になる。②元服して，一人前の男になる。

女になる：①成長して一人前の女性になる。月経がはじまる。娘が年頃になる。②処女でなくなる。男を知る。

陰になり日向(ひなた)になり：人に知られないような面においても、また表立った面においても。何かにつけて絶えず。陰に陽に。

江南(こうなん)の橘(たちばな)、江北の枳(からたち)となる：〔江南の橘を江北に植えれば枳となる意〕人は住む所の風土や習慣によって、その性質が変わることのたとえ。

様(さま)になる：それらしい体裁になる。格好がつく。

杓子(しゃくし)は耳搔(みみか)きにならず：大きなものが必ずしも小さいものの代用にならないことのたとえ。

朱に交われれば赤くなる：人は交わる友、また環境によって、良くも悪くもなる。

相撲にならない：力量が違いすぎて勝負にならない。

泉下の客となる：死ぬ。亡くなる。

滄海(そうかい)変じて桑田(そうでん)となる：〔儲光羲の詩「猷二 八舅東帰一」より〕青海原が桑畑に変わるように、世の中の移り変わりが激しいこと。桑田変じて滄海となる。滄海桑田。

塵(ちり)も積もれば山となる：〔大智度論〕ほんの些細(ささい)なものでも積もれば高大なものとなるたとえ。塵積もりて山となる。

土になる：《「土となる」とも》土に変わる。死ぬ。デジタル大辞泉

毒にも薬にもならない：害にもならないが、かといって役に立つわけでもない。

虎(とら)になる：ひどく酔う。i. 酒に酔って意識が乱れる。大辞林 第三版 ii. 酔って怖いもの知らずになる。酔ってあばれる。また、泥酔する。デジタル大辞泉

習い性(せい)となる：《「書経」太甲上から》習慣は、ついにはその人の生まれつきの性質のようになる。「習い、性となる」と区切る。「ならいしょう、となる」「ならいせい、となる」とは読まない。デジタル大辞泉

根葉(ねは)になる：恨みの種となる。

灰になる：①焼けてすっかりなくなる。築き上げたものが失われる。灰燼(かいじん)に帰す。

馬鹿(ばか)にならない：軽くみることはいできない。いいかげんに扱うことはできない。

馬鹿になる：①本来の機能が失われる。感覚がなくなる。②ばかを装ってその場を耐えたり切り抜けたりする。③理性的な態度をやめる。無邪気になる。

白玉楼中の人となる：文人が死ぬことをいう。

話にならない：①話題にする価値もない。問題にならない。②話がかみあわない。話し合いができない。

人となる：1 おとなになる。成人する。一人前の人間になる。2 人心地を取り戻す。気がつく。デジタル大辞泉

身二つになる：子供を生む。出産する。

ミイラ取りがミイラになる：人を連れもどしに行った者が、逆に先方にとどまってしまう。また、説得におもむいた者が、かえって相手と同じ意見になってしまう。

水になる：成果・労苦がむだになる。

目頭が熱くなる：感動して涙が出そうになる。

物になる：①ひとかどの人物になる。②意図したように事はこぶ。成就する。